

□ アナリスト週間相場予想

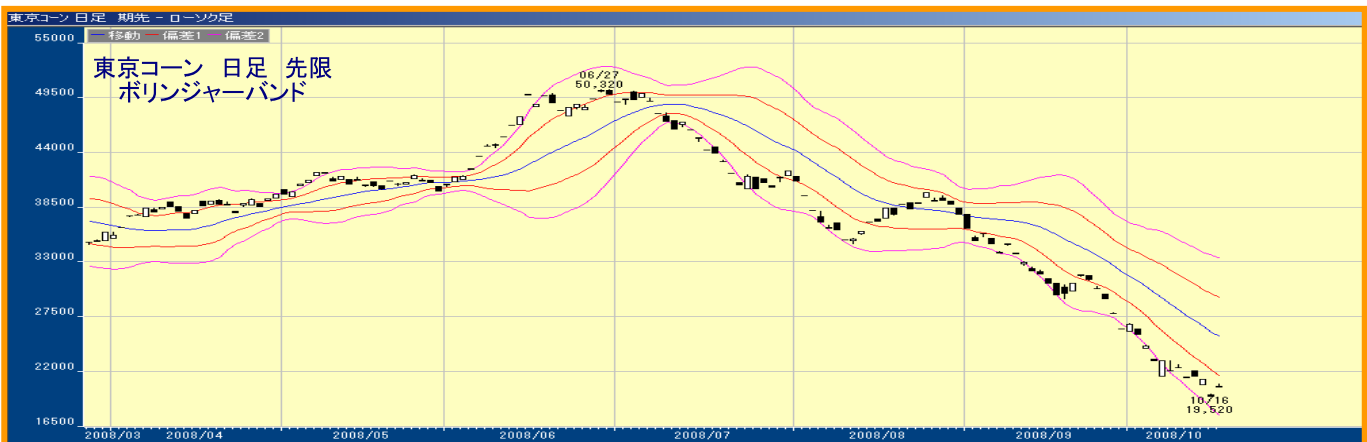
	 コーン Corn	 大豆 Soybean
江崎		
西		

Pick up News

〔注目スケジュール〕

- 10/20 米農務省 (USDA) 週間輸出検証高
USDAクロープ・プログレス
- 23 USDA週間輸出成約高
- 24 米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告

□ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



コーンのチャートを観察すると未だ綺麗な下降トレンドの中にある。道中の調整場面戻りらしい戻りも8月中旬から末にかけて一回あったのみ。よってエリオット波動のカウントでいうと、現在はイクステンションした第3波(下げ波動2段目)の可能性はある。いずれにしても、日柄、値幅ともに大きな下降トレンドの中にある事は疑いようが無く、このように主要サポートラインを探せない状況の時には移動平均線かボリンジャーバンドを指標にするのが有効である。具体的にはボリンジャーバンドの標準偏差 -1σ と日足に注目、少なくとも現在の下降波動が止まるには -1σ ラインを日足が上抜く事が必要だろう。つまり日足の -1σ 回復が示現しない限りは”トレンドは継続する”の原則通り売り方針を変える必要はない。一般大豆もコーンと日足チャートの形状はほぼ同じ、テクニカル見地からはコーンと同じ戦略でよいであろう。(10/17 13:50現在)

□ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

これまで外部要因の悪化ばかりに目が向いていた穀物相場だが、米農務省の10月需給報告がネガティブ要因となったことで、急速に売り直される展開を強いられている。内容を簡潔に述べると、まずコーンに関してはイールドが上方修正、期初在庫も上方修正となって供給拡大が顕著であった。需要は小幅増に留まり、在庫率は前月報告よりも1.0% UPして9.0%という結果。エタノール向けが1億ブッシェル下方修正されている点もポイントであろう。

大豆はコーンよりも変化が大きい。まず、旧穀の生産高がこの期に及んで上方修正されたことに加え、新穀では作付及び収穫面積が220万エーカーも上方修正された。イールドは0.5ブッシェルの下方修正となったが、軽く打ち消されて供給は一気に拡大。コーン同様、価格低下の効果もあって需要は小幅な引き上げとなったにも関わらず、在庫率は4.5%から7.3%へと急上昇が見られた。まさにネガティブ・サプライズだったと言える。

需給報告の結果は大豆に弱気な見通しを与えるものであり、コーンにも相応の売り圧力を加えるものと考えられる。また、海上運賃指数として知られるバルチック・ドライ・インデックス(BDI)が5年半ぶりの低水準に落ち込み、輸入コストの低下に一役買っている現状では、なかなか腰の入った買いは期待できない。為替やシカゴ相場の動向次第で短期的に上向く場面は見られるだろうが、戻り売りスタンスを改める必要はなさそうである。株価や原油相場がきっちり反転するまでは、商品相場全般に覆い被さる不透明感・先安感を払拭するのは難しく、下値模索の展開を強いられるものと考えておきたい。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。

許可RE0061(許可取得日08/10/17)